

第32回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第32回全日本実業柔道個人選手権大会は、8月31日～9月1

日の両日、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で開催された。男子8階級（7体重別と22歳未満の部）に508人、女子7階級82人、計590人がエントリーして連日の猛暑の中、4試合場で熱戦が展開された。

初日の男子は81kg級で村田龍一2段（了徳寺学園）が3年ぶり2度目の優勝を果たした。73kg級で石川美久4段（総合警備保障）、66kg級の北川勝広3段（ダイコロ）、60kg級で小川武志3段（了徳寺学園）は3人も初優勝した。

女子57kg級は窪田雅子3段（コマツ）が3連覇を目指した岡崎綾子2段（ミキハウス）を破つての初優勝。52kg級の宝 寿栄2段（コマツ）、48kg級で山口 静2段（コマツ）もそれぞれ初優勝を飾った。

新人選手の登竜門ともいえる男子22歳未満は佐々田裕良3段（ダイコロ）が圧倒的な強さで初優勝した。

最終日は男子90kg級で斉藤制剛3段（旭化成）、100kg級で中村和裕3段（京葉ガス）が初優勝。また100kg超級でも初出場の市ノ渡秀一3段（平成管財）が大ベテラン下出善紀6段（旭化成）を破つて優勝を果たした。女子は63kg級で植田裕子3段（ミキハウス）、70kg級で貝山仁美3段（三井住友海上）、78kg級で栗原美幸初段（コマツ）、78kg超級で木屋好絵2段（ミキハウス）がともに初優勝した。



開会式で挨拶する松本 甫副会長



柔道ルネッサンス啓蒙のスピーチをする金野 潤 総合警備保障監督



全国各地から出場した選手が集う開会式



力強く宣誓する廣川選手（了徳寺学園）

男子100kg超級 『新鋭 市ノ渡初出場V』

32歳のベテラン下出と22歳のルーキー市ノ渡の対戦となった。右の相四つ。市ノ渡は組んですぐ大外刈りの猛攻を見せるが下出これをうまくかわす。なおも内股、大内刈りで市ノ渡が優勢に攻める。残り1分38秒、下出が前に出るはなを市ノ渡がカウンター気味の支え釣り込み足で「効果」を奪う。下出は挽回せんと、必死に攻めるが、ややスタミナ切れの感あり。防御になった市ノ渡に指導がいくかと思われたがそのまま続行し、タイムアップ。市ノ渡はうれしい初出場初優勝を成し遂げた。このクラスでは、全日本クラスの実力者である村元・高橋の旭化成コンビが故障のため欠場したのは、残念であった。



優勝した市ノ渡選手
(平成管財)

市ノ渡の話 下出さんは力が強いので組み止められたらまずい、組み負けせず戦うよう注意した。昨年の団体選手権大会で対戦し、まぐれの内股で勝ったのですが、下出さんは柔道の組み立て自体がうまい人なので若さで勝負した。優勝出来てうれしい。もっと上を目指して頑張りたい。

【成績】

- 優勝 市ノ渡秀一(平成管財)
- 準優勝 下出善紀(旭化成)
- 第3位 小齊武志(日本道路公園)
- 第3位 谷本竜孝(平成管財)

▽準々決勝

- 小齊 優勢勝ち 江上(九州電力)
- 下出 大内刈 大村(了徳寺学園)
- 谷本 優勢勝ち 寺田(ダイコロ)
- 市ノ渡 優勢勝ち 大野(ダイコロ)

▽準決勝

- 下出 優勢勝ち 小齊
- 市ノ渡 横四方固 谷本

▽決勝

- 市ノ渡 支釣込足 下出

男子100kg級 『ワザ師・中村(和)が涙の初V』

昨年2位の中村(和)が第1シード。対する吉田は186cmの長身、無名ながら、古田(セコム)や窪田(旭化成)などの強豪を切れ味鋭い技で倒しての決勝戦進出だ。中村(和)は、この長身吉田の頭を下げさせて吉田得意の内股を封じた。開始39秒、中村(和)は吉田のふところに飛び込んで左の背負い投げ「技あり」を奪う。千変万化の技を持つ中村(和)だけに、次は1分30秒の左小外刈りで鮮やかに「一本」勝ち。中村は吉田に全く柔道をさせず完勝。準決勝で中村佳央(旭化成)を敗った自信が大きかった。



優勝した中村(和)選手
(京葉ガス)

中村の話 初めての相手だったが組んだ時に「いけるな」と確信した。思い切って技を掛けたら運よくかかってくれた。準決勝で中村佳央さんに勝てたのが一番うれしい。長野の団体対抗で負けていたので、とにかく優勝できてよかった。

【成績】

- 優勝 中村和裕(京葉ガス)
- 準優勝 吉田卓実(十全会聖明病院)
- 第3位 中村佳央(旭化成)
- 第3位 窪田 茂(旭化成)

▽準々決勝

- 中村(和) 優勢勝ち 松本(了徳寺学園)
- 中村(佳) 優勢勝ち 深川(日本道路公園)
- 吉田 内股 古田(セコム)
- 窪田 優勢勝ち 中濱(京葉ガス)

▽準決勝

- 中村(和) 優勢勝ち 中村(佳)
- 吉田 大腰 窪田

▽決勝

- 中村(和) 小外刈 吉田

男子90kg級 『斉藤制剛、内股一閃』

斉藤、高橋ともに右組みの相四つ。まず188cmの高橋、引き手を握ると長身からバネのある内股を飛ばす。斉藤これを心得ており、巧みにかわす。勝負は一瞬にして決まった。開始1分、斉藤は高橋を右に回しながら内股で跳ね上げれば、高橋たまらずきれいに舞って背中から畳みに落ちて「一本」。両者とも寝ても強く、斉藤には肩車もあるので、起伏の多い試合を予想した向きも多かった。しかし、高橋に攻める糸口を与えない、妙技だった。見事な「一本」で初優勝。



優勝した斉藤選手
(旭化成)

斉藤の話 高橋さんとは練習は何回かやっていますが、試合は初めて。実は3週間前の全日本合宿で右肩を痛め、練習できなかつた。体重調整もきつた。今までの自分は先にポイントを取られることが多かったけど、今日はそれがなかった。
高橋さんは一発が強いので初めから相手の釣り手を落とした。回りこんでの内股がうまく入ったが、これは足が短いので真つすぐでは入れないため(笑い)。

【成績】

優勝 斉藤制剛(旭化成)
準優勝 高橋徳三(新日本製鐵・広畑)
第3位 廣川充志(了徳寺学園)
第3位 齋藤純平(セコム)

▽準々決勝

○廣川 小外刈 筒井(平成管財)
○斉藤 優勢勝ち 前田(九州電力)
●齋藤 優勢勝ち 新田(京葉ガス)
○高橋 優勢勝ち 落合(セコム)

▽準決勝

○斉藤 優勢勝ち 廣川
●高橋 優勢勝ち 齋藤

▽決勝

○斉藤 内股 高橋

男子81kg級 『村田復活の優勝』

第29回大会の優勝以来、平成管財の秋山成勲選手にタイトルを持っていかれたが、村田が久しぶりに健在ぶりをアピールした。一方は、進境著しい丸山が決勝に進出してきた。

村田は、さすがに強く、開始13秒の大内刈りで「効果」をあげ、抑え込みに入ったが、これはすぐ解けた。丸山の反撃も左内股で村田をヒヤリさせるなど懸命だ。村田の内股が空振りの後、丸山の巴投げはポイントかと思われたがわずかに不十分。残り2分、村田だけに「指導」与えられこれで両者タイに。

丸山、さらに左大内刈りの猛攻を村田、辛くも防ぐ。しかし残り43秒、村田の大外刈りが決まる。一瞬、間をおいて「一本」の声が上がった。



優勝した村田選手
(了徳寺学園)

村田の話 去年の講道館杯で、腰とか背中とか痛めて、以来ずっと練習を休んでいた。だから、この大会もマイペースで出るような状態。ただ、出るからには試合は結果を残していきたい。今回は結果を残せてよかったと思う。

【成績】

優勝 村田龍一(了徳寺学園)
準優勝 丸山昌孝(セコム)
第3位 相牟田 豊(自衛隊体育学校)
第3位 角地信太郎(旭化成)

▽準々決勝

○相牟田 大内刈 正木(平成管財)
○丸山 内股 庄島(庄島電気)
●角地 優勢勝ち 坂本(ダイコロ)
○村田 上四方固 鈴木(旭化成)

▽準決勝

●丸山 優勢勝ち 相牟田
○村田 優勢勝ち 角地

▽決勝

○村田 大外刈 丸山

男子73kg級 〃同門対決は石川がV〃

第1シード安達と第3シード石川の対決となった。同門のせいで、特に目立った声援なし。静かではあるが両者の熱気は感じられる。だが、安達左、石川右のけんか四つとあって組み手争いが激しく、決め手が出ない。開始54秒で両者「指導」、2分15秒で同じく「注意」を受ける。

安達は背負い投げ、巴投げ。石川は大腰、大外刈り、小外刈りの展開。いずれもポイントに結びつかなかったが、石川やや押し気味で、2度ほど安達を崩した。この猛攻で残り26秒、左肘を痛めた安達がドクタースタイルを求め場面もあった。

再開後もますます石川攻勢を取り、双手刈りも見せてタイムアップを迎える。判定は白3本で石川うれしい初優勝。



優勝した石川選手
(総合警備保障)

石川の話 同所属なので気持ちの上ではやりにくかった。4月の選抜体重別で右膝じん帯を痛め、その治療とリハビリに時間がかかった。2週間前やっと乱取りができるようになったばかり。

出場するからには、もちろん勝ちたいと思って臨んだ。初戦から技も掛けられるし、一本勝ちが続いた。準決勝から試合時間が5分間なので、ちよっときつかったが、試合感覚も思ったよりよく残っていた。

同じ筑波大のライバルに金丸と高松がいるけど、この2人には負けたくない。世界を目指したい。

【成績】

- 優勝 石川美久(総合警備保障)
- 準優勝 安達春樹(総合警備保障)
- 第3位 松原 豊(セコム)
- 第3位 相馬大樹(自衛隊体育学校)

▽準々決勝

- 安達 優勢勝ち 中村(京葉ガス)
- 松原 優勢勝ち 村野(興吉塾)
- 石川 優勢勝ち 三原(ツクバ計画)
- 相馬 優勢勝ち 寺井(東京消防庁)

▽準決勝

- 安達 肩固 松原
- 石川 すくい投 相馬

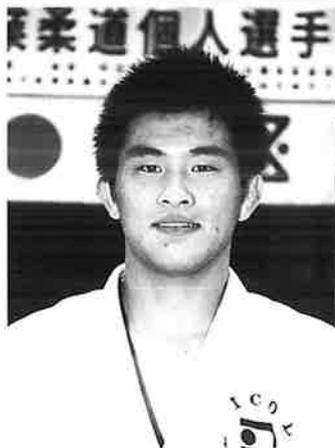
▽決勝

- 石川 優勢勝ち 安達

男子66kg級 〃北川が講道館杯に次ぐ優勝〃

4人のシード選手がそろって準決勝に進出した。今大会唯一のケースである。昨年3位の内村は水戸葵陵柔道クラブ所属と変わって決勝へ進出した。相手は8歳下の北川。昨年11月の講道館杯優勝のタイトルを引っ下げての登場だ。

序盤は両者動きが少なく、31秒「指導」となる。これから北川が盛んに仕掛けるも決定的ポイントなし。3分近くには北川のすくい投げを内村危うく代わす。4分05秒、北川組んで左大外刈り。内村こらえる。この両者、けんか四つながら、よく組み合つての攻防。しかし、残り28秒、双方に「注意」が与えられる。若いだけに北川、積極的に突っ込むこと二度。結局、旗判定となり白3本で北川が初優勝を飾った。



優勝した北川選手
(ダイコロ)

北川の話 自分がジュニア強化選手のところ、内村先輩は南條先輩(ダイコロ)とかと戦っていた。自分は知ってたけど相手のほうは自分のことなんか知らないでしょう。トシも違うし、もちろん初対戦です。相手ブロックからは直感で内村さんが出て来ると思った。でも実力的に須藤先輩、小室先輩、みな変わらないうえです。決勝は「一本」とかでなく、「僅差」でもいいから勝ちたかった。今年も鳥居先輩(了徳寺学園)に追いついて、講道館杯でV2、そして来秋の大阪の世界選手権に向けて強くアピールしたい。

【成績】

- 優勝 北川勝広(ダイコロ)
- 準優勝 内村直也(水戸葵陵柔道クラブ)
- 第3位 須藤英雄(ダイコロ)
- 第3位 石川正樹(東芝)

▽準々決勝

- 須藤 払腰 関口(総合警備保障)
- 内村 優勢勝ち 小室(了徳寺学園)
- 北川 払腰 松尾(本田技研・熊本)
- 石川 優勢勝ち 重松(府中刑務所)

▽準決勝

- 内村 返し技 須藤
- 北川 優勢勝ち 石川

▽決勝

- 北川 優勢勝ち 内村

男子60kg級

「新人・小川が初V」

シード4人のうち準決勝に残ったのは吉岡だけ。4年連続2位の吉岡は今年も初Vのチャンス逃がした。不運としか言いようがない。吉岡を破ったのは新人の小川。日体大を出たばかりだ。小川右、吉岡左のけんか四つだが「有効」1の吉岡に対し、小川は「有効」と「効果」各2の大量ポイントあげた。

決勝戦の相手、伊藤も初顔だ。これまたけんか四つ。先に「指導」を受けたのは小川だが、直後にタックルで「効果」を奪い、タイに。伊藤の払い腰、一本背負い、小川の背負い、大外刈りと技の応酬のあと3分42秒、伊藤の背負いを朽木倒しに返した小川が「有効」でリード。伊藤、しゃにむに反撃するが小川の守り固く、タイムアップ。

それだけなら「有効」で決着だが、タイムアップ直後何やら伊藤が悔しまぎれに口にした言葉に、主審が警告を与えた。伊藤は自分自身の不甲斐を責めたのだろうか……。



優勝した小川選手
(了徳寺学園)

小川の話 伊藤さんにはけいこは何回もつけてもらったが試合は初めて。自分は技が大きいので、一本背負いをかけるにも、いきなりでなく、小内からとかの連絡技を、もつと身につけていきたい。

【成績】

- 優勝 小川武志(了徳寺学園)
- 準優勝 伊藤恭規(総合警備保障)
- 第3位 松本秀彦(セコム)
- 第3位 吉岡博之(自衛隊体育学校)

▽準々決勝

- 松本 優勢勝ち 清水(平成管財)
- 伊藤 優勢勝ち 鈴木(日体大柔友会)
- 小川 優勢勝ち 漆畑(東芝)
- 吉岡 優勢勝ち 上野(セコム)

▽準決勝

- 伊藤 横四方固 松本
- 小川 優勢勝ち 吉岡

▽決勝

- 小川 警告 伊藤

男子22歳未満

「佐々田が豪快なデビュー飾る」

佐々田が6戦オール一本勝ちでデビュー戦を飾った。身長(187cm)体重(125kg)ともバランスの取れた体格で、組む前から相手を圧倒する感があった。

決勝も左内股で「有効」を奪い、二の矢は開始わずか38秒豪快な大外刈りで見事な一本勝ち。アツという間の華やかな初優勝。しぶとく勝ち上がった神田にとっては、厚く重たい壁だった。

佐々田は、まだまだ未完だが体力的にも、技術的にも将来有望な大器であることは間違いない。今後ますますの成長を期待したい。



優勝した佐々田選手
(ダイコロ)

佐々田の話 今日、とにかく一生懸命やりました。柔道は小4から始め、高校時代は2年の時にインターハイの個人でベスト8まで。3年の時はインターハイの団体決勝トーナメントに入ったところまでだった。ダイコロには自分の方から「採用してもらえませんか」とお願いしてきました。

【成績】

- 優勝 佐々田裕良(ダイコロ)
- 準優勝 神田良平(セコム上信越)
- 第3位 前田周介(東レ・滋賀)
- 第3位 松原亮太(十全会十全病院)

▽準々決勝

- 前田 優勢勝ち 濱崎(トヨタ自動車)
- 佐々田 大内刈 小西(帝人・松山)
- 松原 優勢勝ち 原(十全会回生病院)
- 神田 裏投 渡辺(新日鐵大分)

▽準決勝

- 佐々田 上四方固 前田
- 神田 優勢勝ち 松原

▽決勝

- 佐々田 大外刈 神田

女子78kg超級 『木屋 本領発揮』

ベテラン木屋に対し、昨年の覇者徳田の戦い。
 徳田が連覇を狙い、内股で盛んに攻める。1分近く、木屋の放つ内股が場外で徳田を倒してから形勢逆転する。木屋は1分7秒に小外掛け「技あり」から、そのまま速攻の縦四方固めに入り、1分32秒合わせて「一本」で初優勝となった。



優勝した木屋選手
(ミキハウス)

木屋の話 対戦? 覚えてません。初めてじゃないかな。中野さんが出て来るかと予想していた。どちらも大変だけど自分の柔道やるしかない、と思っていた。去年は、膝の手術などで不調だったけど、今は調子が良い。これからです!

【成績】

- 優勝 木屋好絵(ミキハウス)
- 準優勝 徳田美由樹(コマツ)
- ▽一回戦
 - 中野 反則勝ち 空田(東洋観光)
 - 難波 優勢勝ち 山田(タカメデイカル)
- ▽準決勝
 - 徳田 優勢勝ち 中野(セコム)
 - 木屋 合わせ技 難波(ダイコロ)
- ▽決勝
 - 木屋 縦四方固 徳田

女子78kg級 『栗原裏投げで悲願の初V』

左の栗原と右の吉田とけんか四つの対戦。栗原は2年連続2位で、吉田は一昨年1位、昨年3位の間柄だ。栗原は引き手十分、吉田が1分35秒に大内刈りに出るはなをとらえて十八番の裏投げ「技あり」は決定打となる。残り2分55秒両方に「指導」。挽回をあせる吉田は右内股で攻め、小外刈りで「効果」と迫るが、それまで。攻撃の幅は多彩だったが、引き手を取れず追いつけなかった。



優勝した栗原選手
(コマツ)

栗原の話 これで3回目の対戦。一昨年の団体対抗で裏投げ一本勝ち、その年のこの大会決勝で大内刈りか小内刈りで一本負けした。とにかく相手は大きいので組まれると厄介。自分から先に先に攻めた。準決勝の原澤さんもきつかったが、場外注意と効果を取って、これで氣勢が上がった。

【成績】

- 優勝 栗原美幸(コマツ)
- 準優勝 吉田亜沙美(三井住友海上)
- ▽一回戦
 - 原澤 棄権勝ち 大久保(セコム上信越)
 - 佐藤 優勢勝ち 鋤本(岡山県体育協会)
 - 吉田 縦四方固 森島(セコム)
- ▽準決勝
 - 栗原 優勢勝ち 原澤(三井住友海上)
 - 吉田 優勢勝ち 佐藤(ミキハウス)
- ▽決勝
 - 栗原 優勢勝ち 吉田

女子70kg級 “4年連続2位の貝山遂に初V”

天尾と貝山。この大会3度目の対決で、天尾が連勝している。貝山は同門上野雅恵や中市陽子（ミキハウス）に遅れを取ったこともあり、4年連続2位に甘んじている。だが、昨年は4月の選抜体重別1回戦で貝山が得意の寝技で天尾に一本勝ちしている。

左組み同士。互いに手の内を知り尽くした仲だけに慎重だ。両方に「指導」があつて貝山のすくい投げを心得たりと天尾左へ巻くも団体。うまいタイミングで貝山の大外刈り「効果」、今度は天尾も払い腰「効果」でたちまち追いつく。残り1分51秒、貝山の太外刈りは潰され、天尾の払い腰、内股もポイントにならない。残り50秒、貝山が体を沈めて放った低い一本背負いが「効果」を生んだ。これが決勝点となり、貝山うれいという悲願の初優勝。



優勝した貝山選手
(三井住友海上)

貝山の話 6回目の対戦で2勝目です。沢山負けるので、ちゃんとポイント取って勝ちたかった。中盤、天尾さんが奥えり取ってきたので、頭を下げられたのが2回あった。指導を取られなきやいなと思つた。3回ほど寝技で攻めたが、相手も必死に守るから取れない。うちの選手は皆ワールドカップへ行つてるので私が優勝しなくては……と頑張つた。寮のおばちゃんの声がよく聞こえた。

【成績】

- 優勝 貝山仁美(三井住友海上)
 - 準優勝 天尾美貴(コマツ)
 - 第3位 古賀幸恵(ミキハウス)
 - 第3位 中尾春菜(西日本警備保障)
- ▽一回戦
- 天尾 払腰 田代(十全会回生病院)
 - 古賀 合わせ技 齋藤(セコム)
 - 中尾 内股 吉留(タカメディカル)
 - 貝山 内股 上野(肥後銀行)
- ▽準決勝
- 天尾 優勢勝ち 古賀(ミキハウス)
 - 貝山 腕緘 中尾(西日本警備保障)
- ▽決勝
- 貝山 優勢勝ち 天尾

女子63kg級 “植田裕子、執念の初V”

200人前後の三井住友海上サポーターは、そろいのハッピ姿で徳久に大声援を送る。植田は、まず左の袖釣り込み腰で攻める。しかし、開始32秒、徳久が大内刈りで「効果」を奪う。徳久は続けて巴投げ、更に寝技で勝負を挑むが、植田うまく代わして、その手に乗らない。

中盤、植田の袖釣り込み腰が何度か徳久を大きく浮かせるが、ポイントにならず、徳久つぶして上になる。植田なおも両手刈りで果敢に挽回を図り、残り15秒やっと袖釣り込み腰で「効果」奪う。スコアは互角。残り7秒、帯を直して「ハジメ」の声に植田両手刈りを見せる。

判定は赤の徳久に1本―白の植田2本の激戦。一昨年2位、昨年3位の植田が執念の初優勝を飾った。



優勝した植田選手
(ミキハウス)

植田の話 徳久さんとは3度目の対戦です。昨年この大会で勝って、全国体重別で負け。だから1―1のイーブンです。今日は徳久さんに負けてると思つて取り返しに行った。やられたらやり返すの精神です。

【成績】

- 優勝 植田裕子(ミキハウス)
 - 準優勝 徳久 瞳(三井住友海上)
 - 第3位 南 千草(ミキハウス)
 - 第3位 益子里美(日本製薬)
- ▽準々決勝
- 南 合わせ技 大田(コマツ)
 - 徳久 巴投 鳥入(セコム)
 - 植田 袖釣り込腰 小坂(タイコロ)
 - 益子 腕緘 中島(十全会回生病院)
- ▽準決勝
- 徳久 腕挫十字固 南
 - 植田 優勢勝ち 益子
- ▽決勝
- 植田 優勢勝ち 徳久

女子57kg級 「窪田が2年分のリベンジV」

3年連続の決勝顔合わせは過去岡崎の2連勝である。昨年は残り1分近くになって窪田の体落としを岡崎がカウンター気味の谷落とし有効で決着を付けた。お互い手の内を知り尽した両者、組み手争いに始まり、組んでも技が出ない。1分13秒両者に「指導」が与えられる。残り1分32秒に「注意」となった。終盤に大内刈り、背負い投げで攻めた窪田に判定の旗3本が上がった。窪田はうれしい初優勝であるが、お互いもう一つのクラス狙うには、もう少し組み合つての勝負が必要と思われる。



優勝した窪田選手
(コマツ)

窪田の話 岡崎さんとは、もう数えきれないほど試合している。自分は背が低いから、上から持たれると不利になるので、いつも自分の間合いを取ってそれで動いて掛けた。微妙な判定となって、旗が割れるかな?とは思った。とにかく優勝できてうれしい。

【成績】

- 優勝 窪田雅子(コマツ)
- 準優勝 岡崎綾子(ミキハウス)
- 第3位 岩藤理恵(三井住友海上火災保険)
- 第3位 大石いづみ(塩谷建設)

▽準々決勝

- 岡崎 優勢勝ち 津野(タイコロ)
- 岩藤 横四方固 大坪(コマツ)
- 大石 優勢勝ち 木村(綾羽)
- 窪田 優勢勝ち 藤井(ミキハウス)

▽準決勝

- 岡崎 優勢勝ち 岩藤
- 窪田 優勢勝ち 大石

▽決勝

- 窪田 優勢勝ち 岡崎

女子52kg級 「終始リードの宝が初V」

決勝戦は、共にルーキーの宝と村上。初対戦である。宝は昨年の優勝者横澤に一本勝ちしての決勝進出。一方の村上は、前年3位の堺に「効果」を先取されたあと出足払いで逆転しての進出である。
しかし、宝の攻撃が際立っていた。背負い投げからうまく寝技に持ち込み、2度縦四方固めが決まりかけたが、その度に村上逃れて「効果」2つ宝が奪う。その後も宝は低めの背負い投げ、払い腰、大外刈りを連発して「有効」を重ね、安定したリードを保って初優勝を飾った。



優勝した宝選手
(コマツ)

宝の話 村上さんは足技がうまいので特に足払いを警戒して、後ろに下がらないように意識した。いつも練習中、後ろに付かれてしかられていたのが、相手ペースにはまらないよう自分に言いきかせて戦った。大学の時、成績を残せなかった自分に声をかけてくれた先生方に、報告とお礼を言いたい。

【成績】

- 優勝 宝 寿栄(コマツ)
- 準優勝 村上良子(早稲田柔道倶楽部)
- 第3位 横澤沙恵(タカメディカル)
- 第3位 堺 千陽(高宮接骨院)

▽準々決勝

- 横澤 優勢勝ち 鍛冶(ミキハウス)
- 宝 小内刈 渡辺(目黒整請求サービス)
- 村上 棄権勝ち 海下(タイコロ)
- 堺 払腰 西(目黒製薬)

▽準決勝

- 宝 袖釣込腰 横澤
- 村上 小外刈 堺

▽決勝

- 宝 優勢勝ち 村上

女子48kg級

「山口、リベンジの初優勝」

昨年準優勝の三浦と、決勝戦初進出の山口の決勝戦、2人は昨年のこの大会1回戦で対戦し、三浦が優勢勝ちをおさめている。開始30秒三浦に「指導」が与えられるが、すかさず返し技で「効果」を奪いタイに持ち込む。中盤、三浦が背負投げで攻めるが決まらず、逆に山口が大外刈で「効果」を奪う。その後、お互い激しい攻防を繰り広げるが時間となり、山口が昨年のリベンジを果たし初優勝を飾る。



優勝した山口選手
(コマツ)

山口の話 以前、気持ち弱気になって負けた苦い経験があったので、絶対勝つんだという気持ちを大事に試合に臨んだ。技も積極的にかけることができた。落ち込んでいた時期に、職場の人達が励ましてくれて、とてもうれしかった。皆さん、ありがとう。

【成績】

優勝 山口 静(コマツ)
準優勝 三浦多恵子(タカメディカル)
第3位 一瀬のぞみ(タカメディカル)
第3位 中本江身子(東洋観光)

▽準々決勝

○一瀬 優勢勝ち 藤田(十全会回生病院)
○三浦 優勢勝ち 児玉(西日本警備保障)
○中本 優勢勝ち 本間(総合警備保障)
○山口 棄権勝ち 濱野(肥後銀行)

▽準決勝

○三浦 袈裟固 一瀬
○山口 総合勝ち 中本

▽決勝

○山口 優勢勝ち 三浦



女子63kg級決勝 植田が袖釣込腰で攻める



男子100kg超級決勝 必死に攻める市ノ渡

熱戦風景



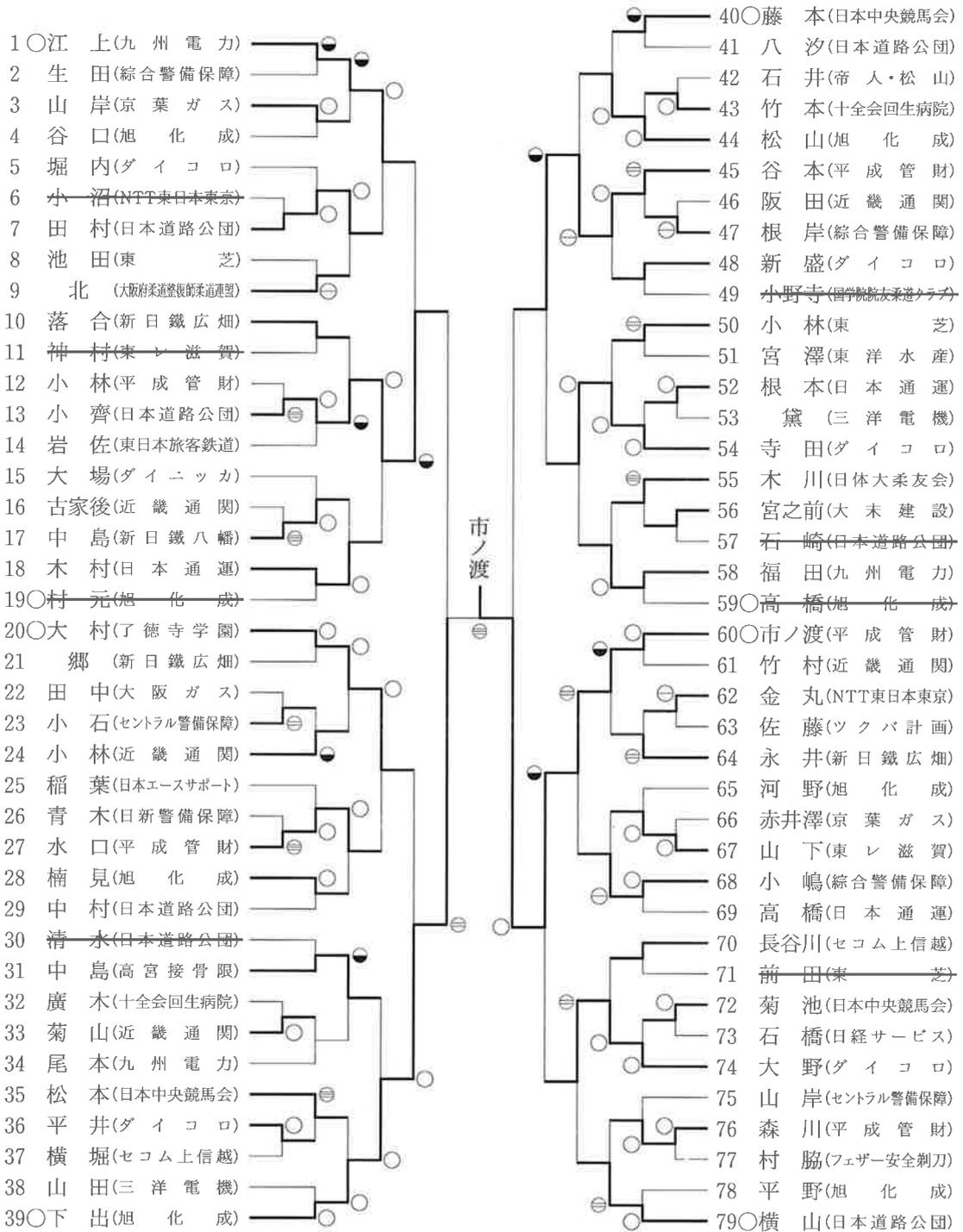
女子78kg超級決勝 組手争いの木屋と徳田



男子100kg級決勝 斉藤の内股 見事に決まる

成績表

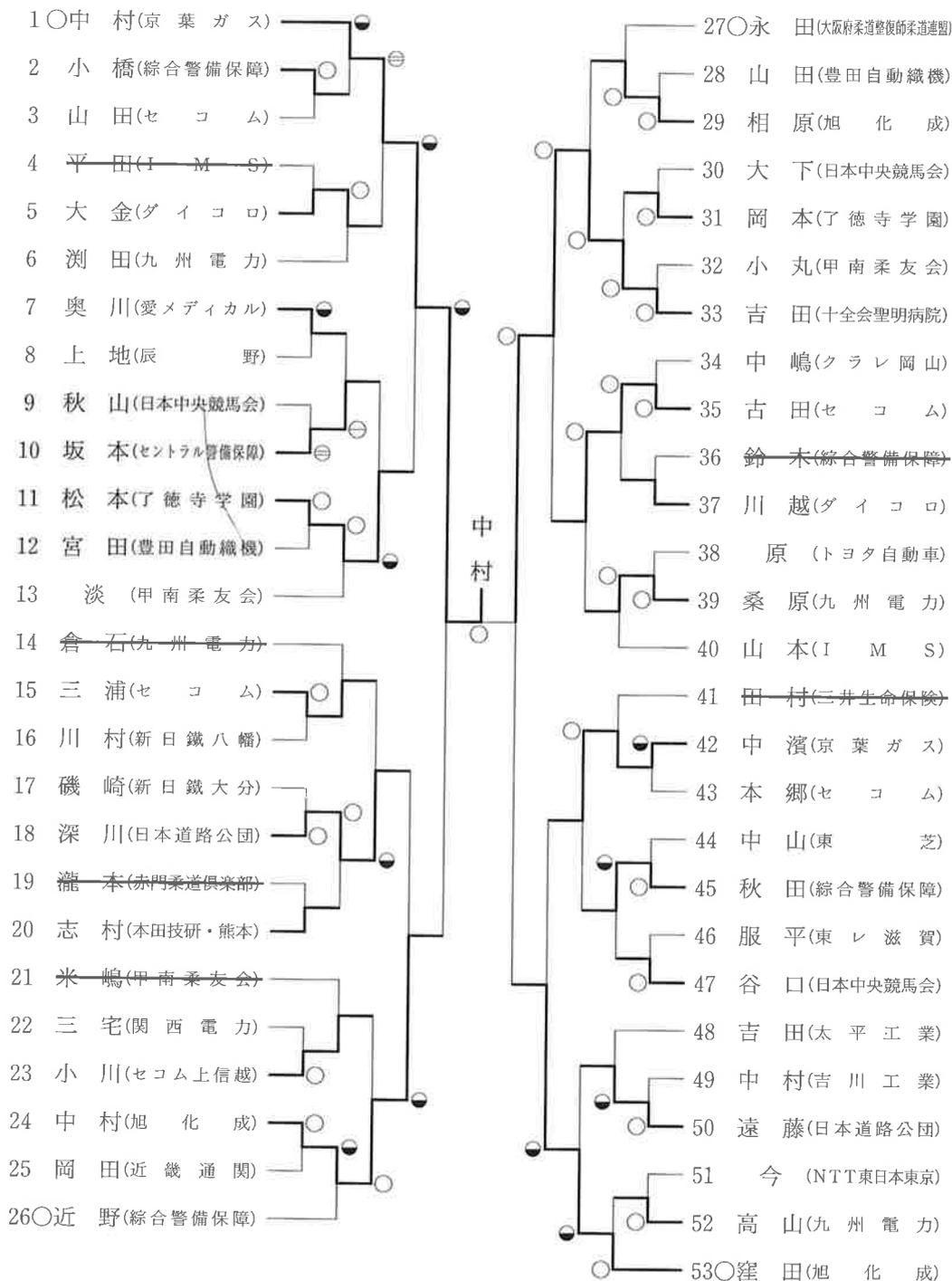
男子100kg超級(79名)



○印はシード選手

成績表

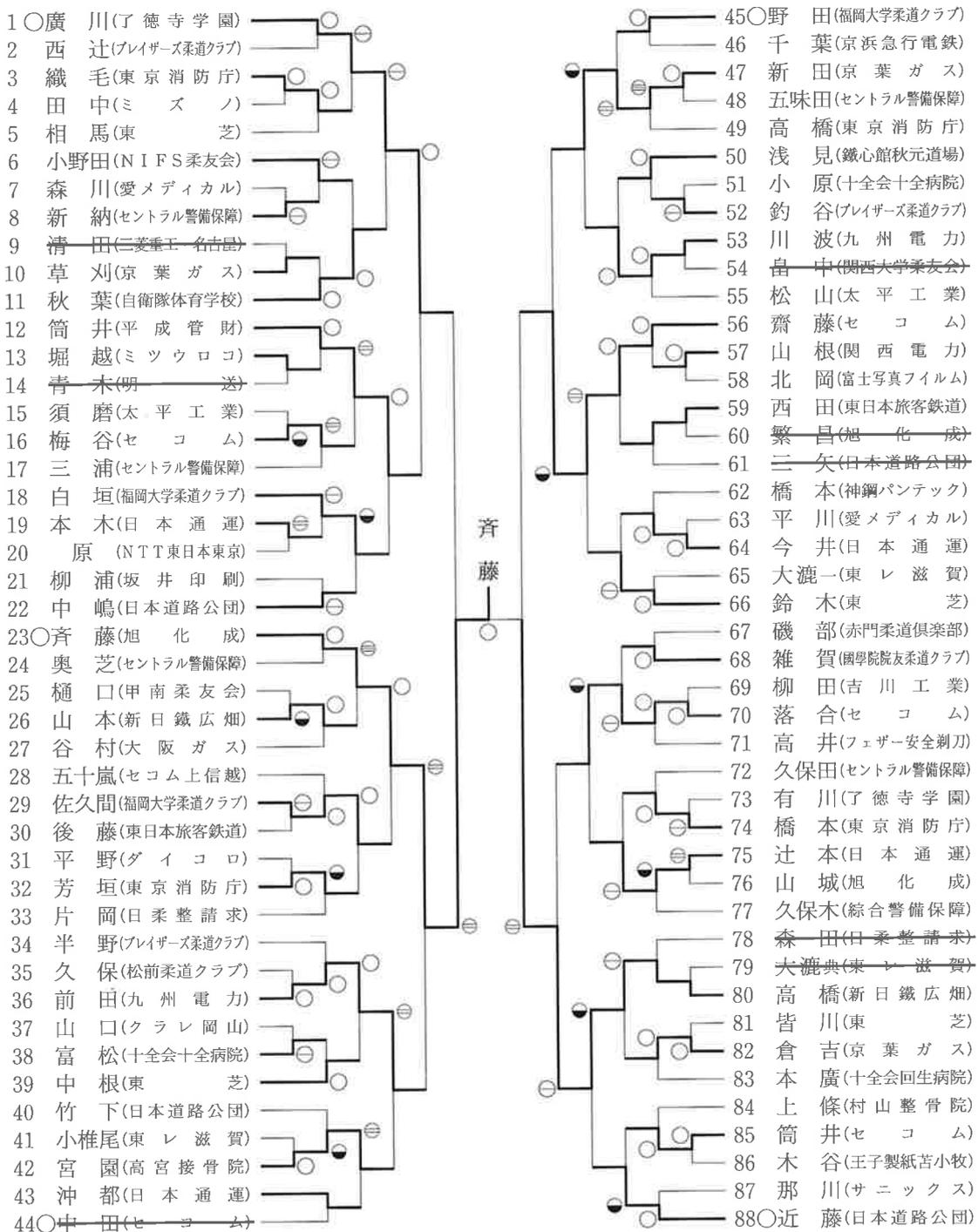
男子100kg級(53名)



○印はシード選手

成績表

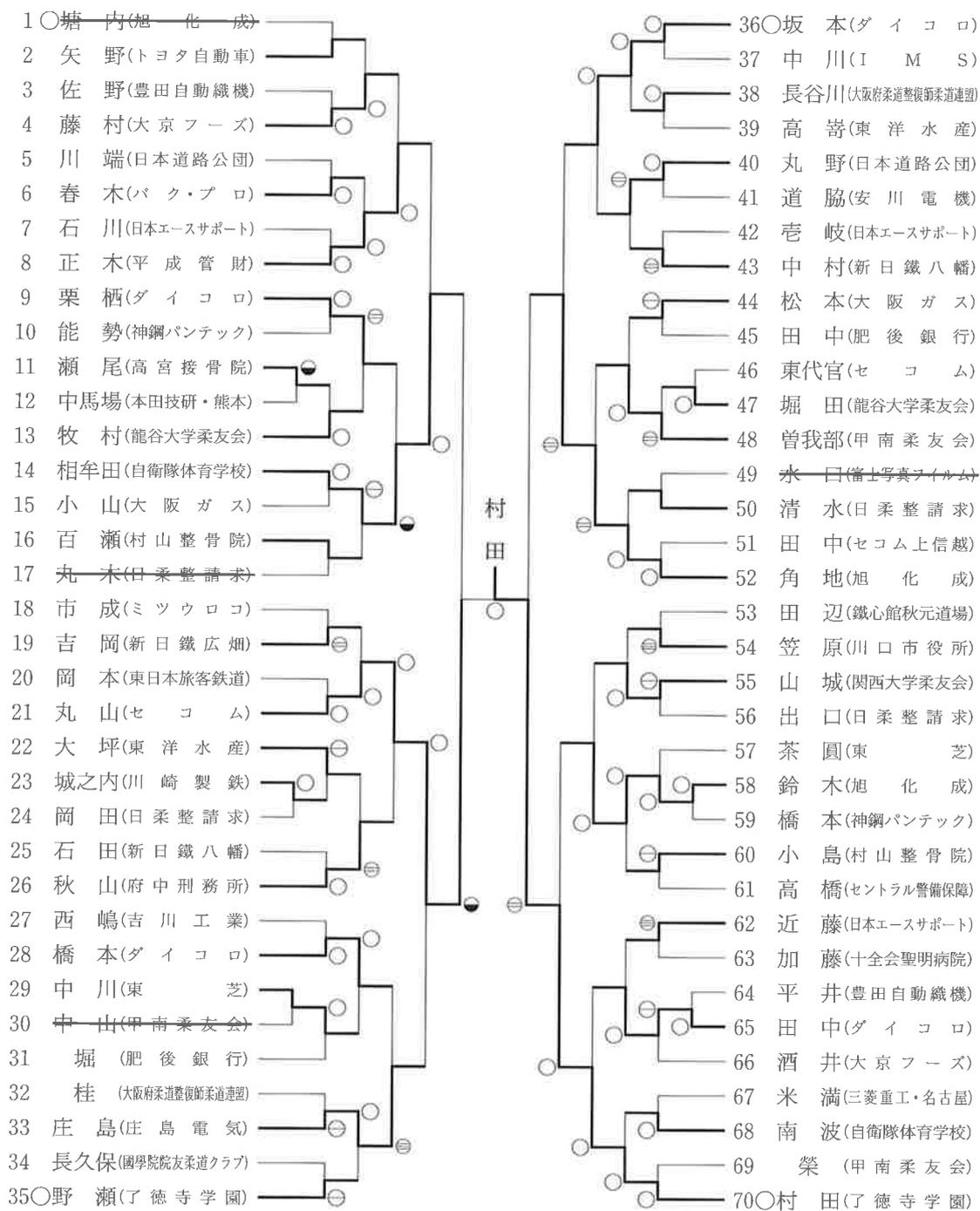
男子90kg級(88名)



○印はシード選手

成績表

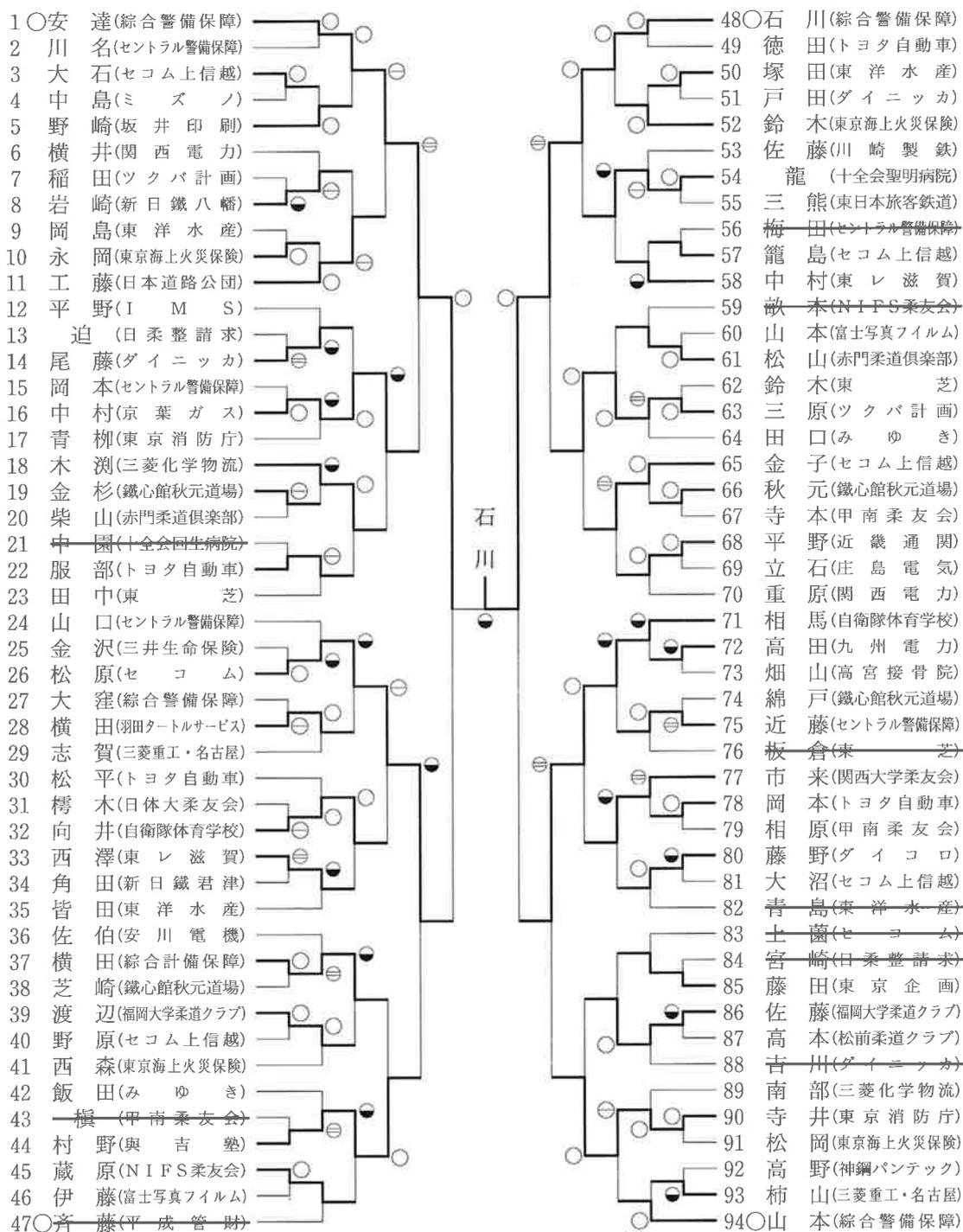
男子81kg級(70名)



○印はシード選手

成績表

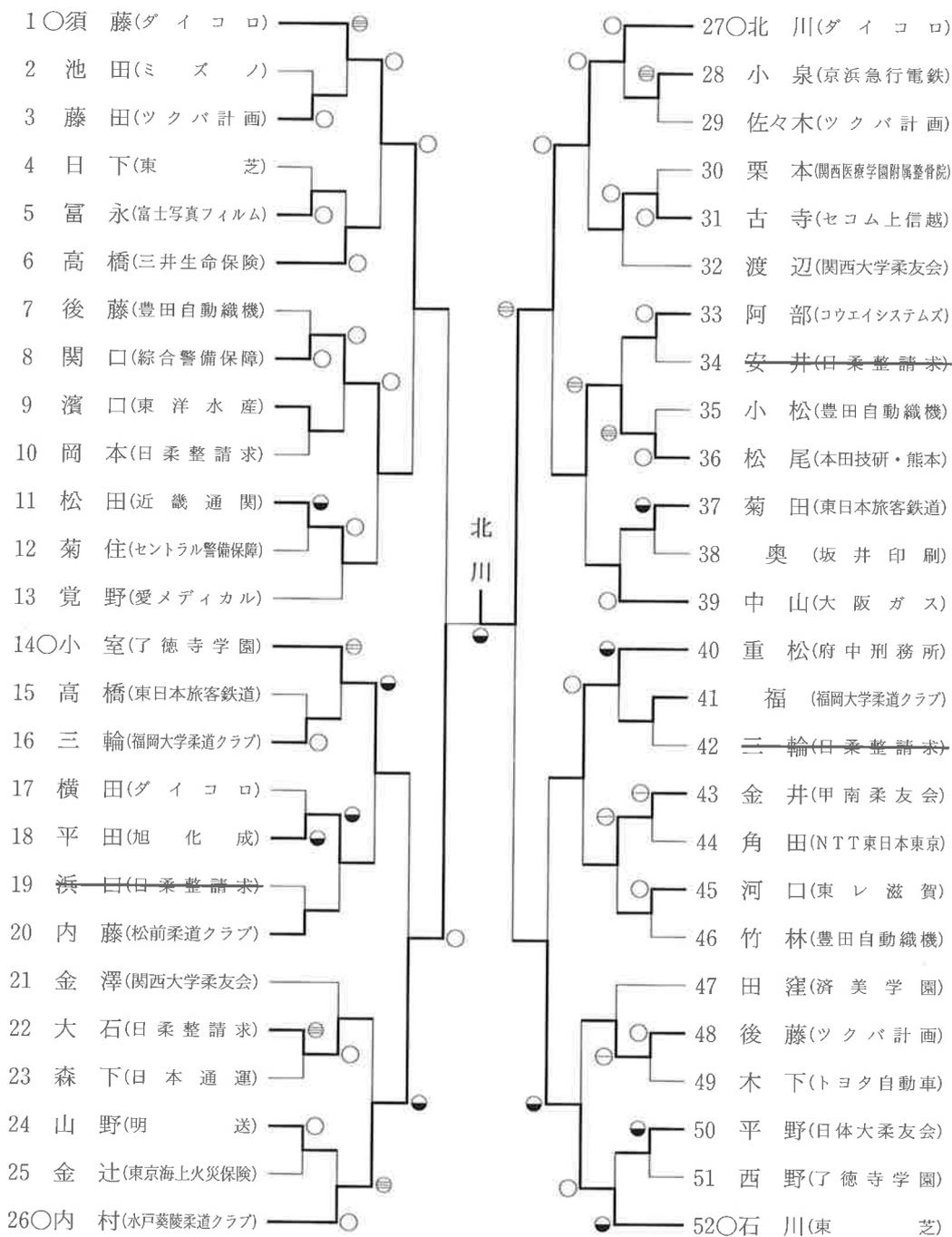
男子73kg級(94名)



○印はシード選手

成績表

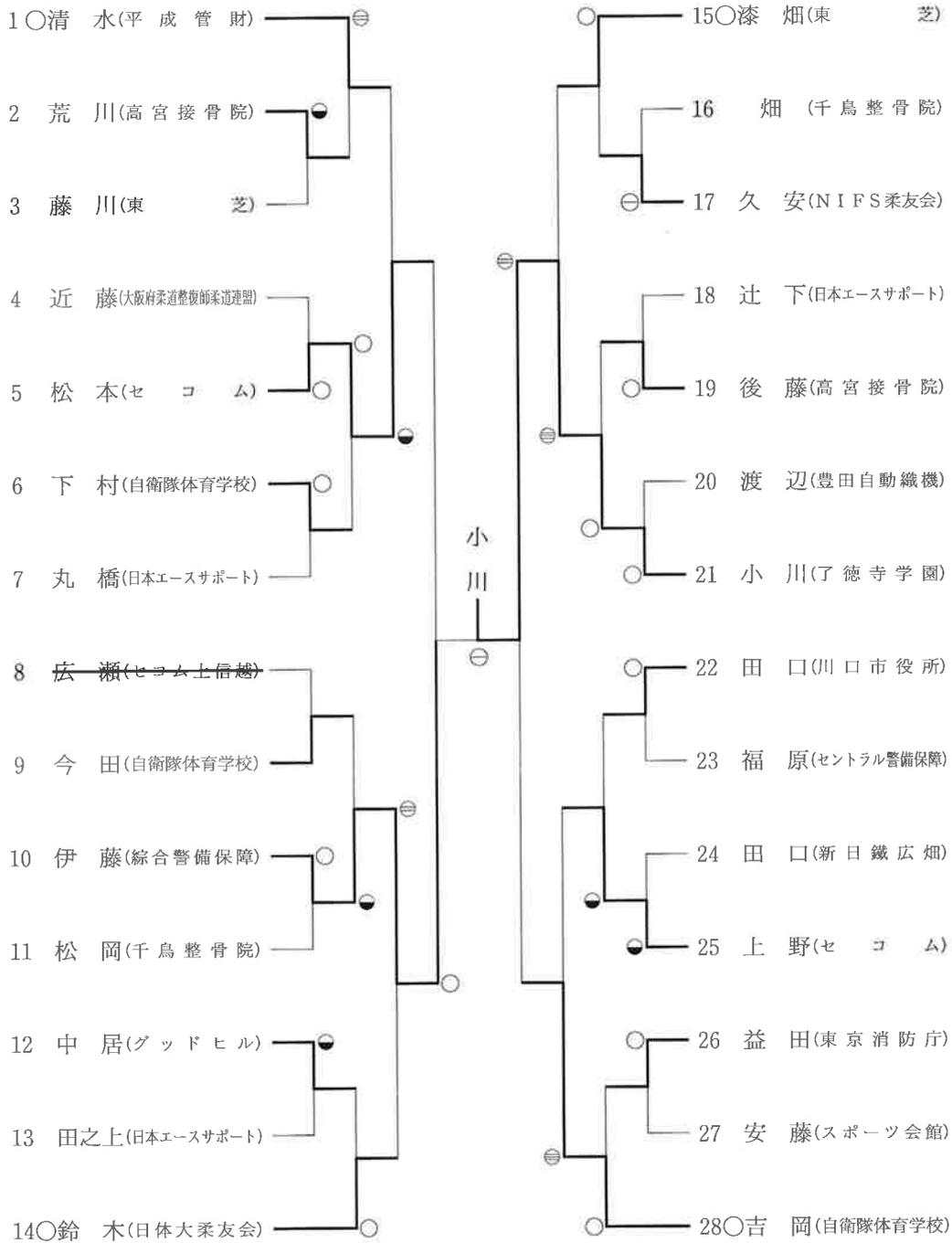
男子66kg級(52名)



○印はシード選手

成績表

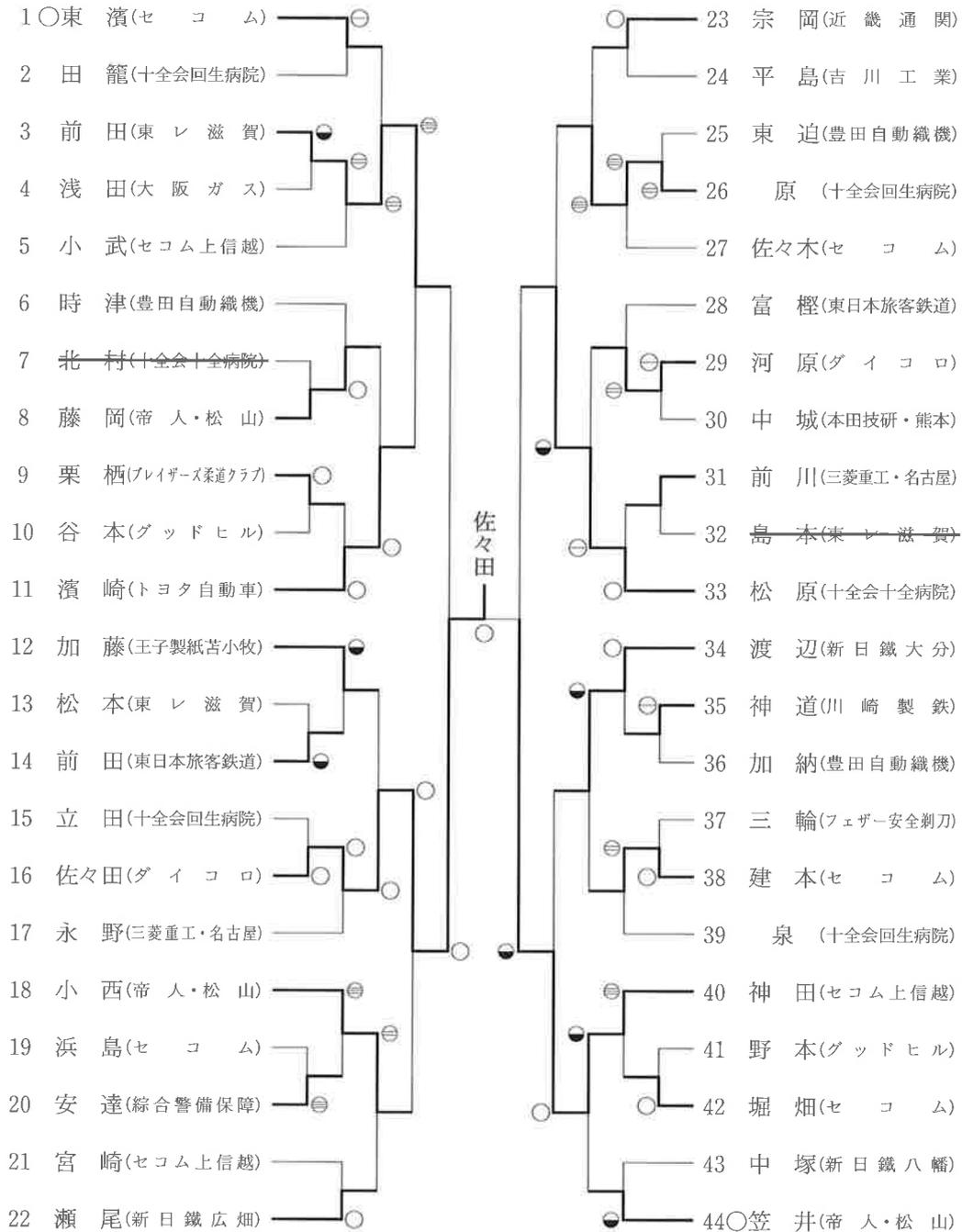
男子60kg級(28名)



○印はシード選手

成績表

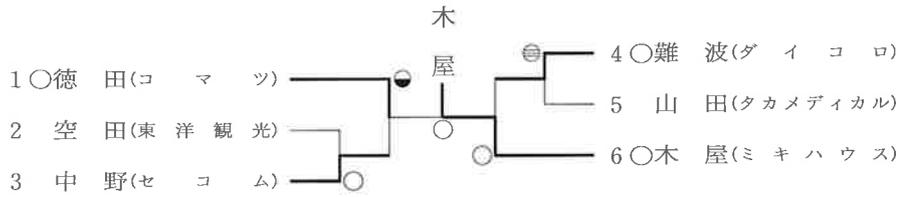
男子22才未満(44名)



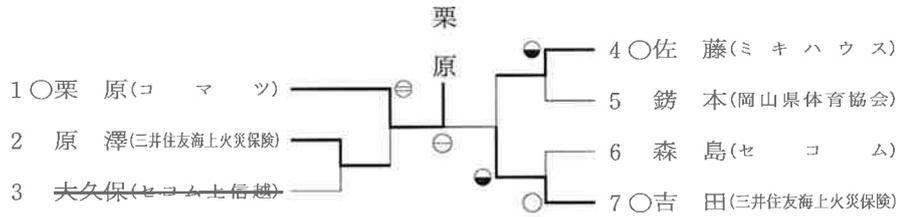
○印はシード選手

成績表

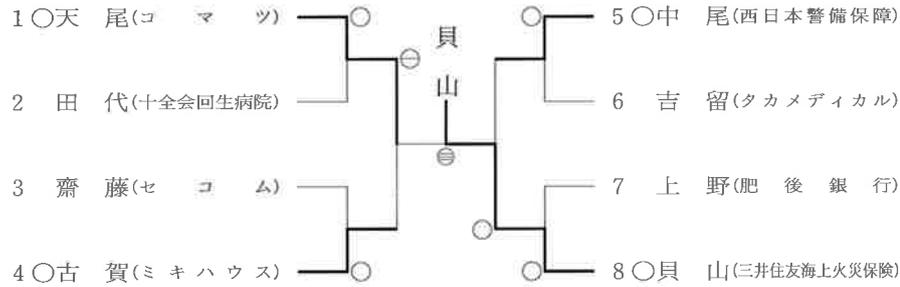
女子78kg超級(6名)



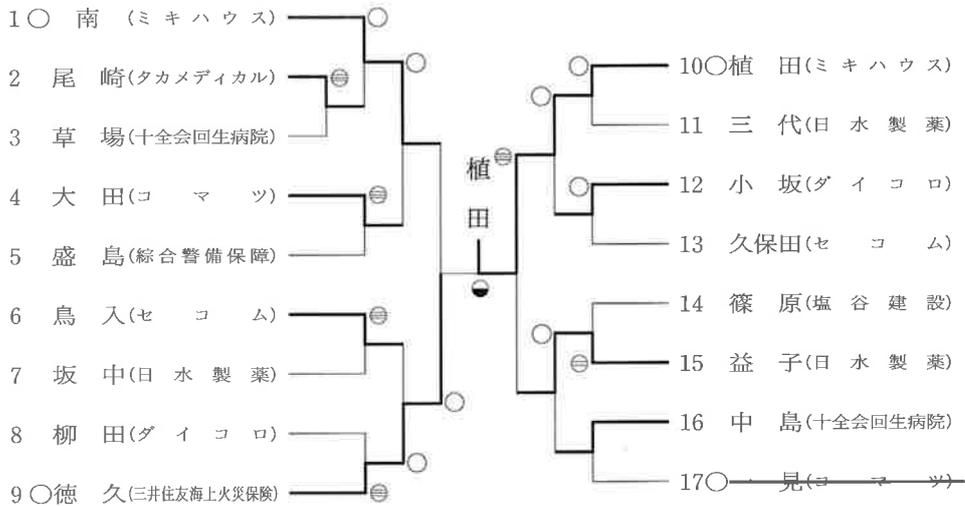
女子78kg級(7名)



女子70kg級(8名)



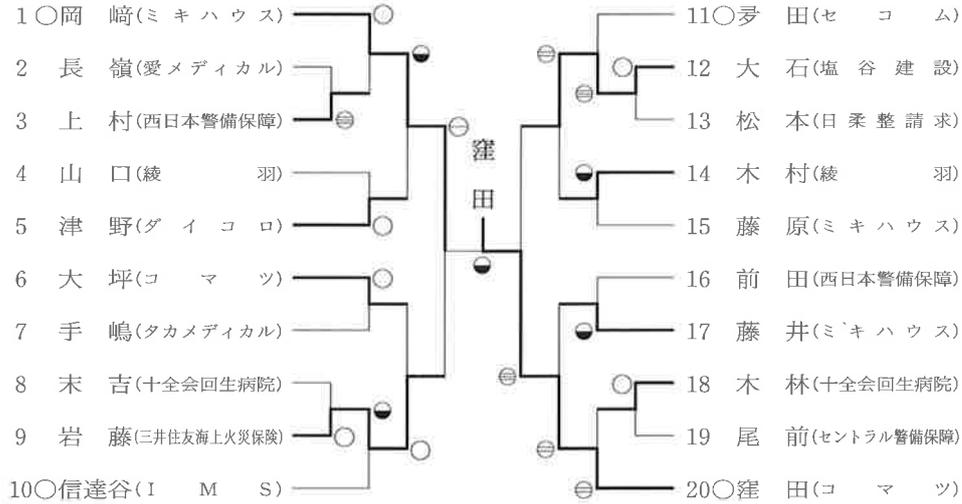
女子63kg級(17名)



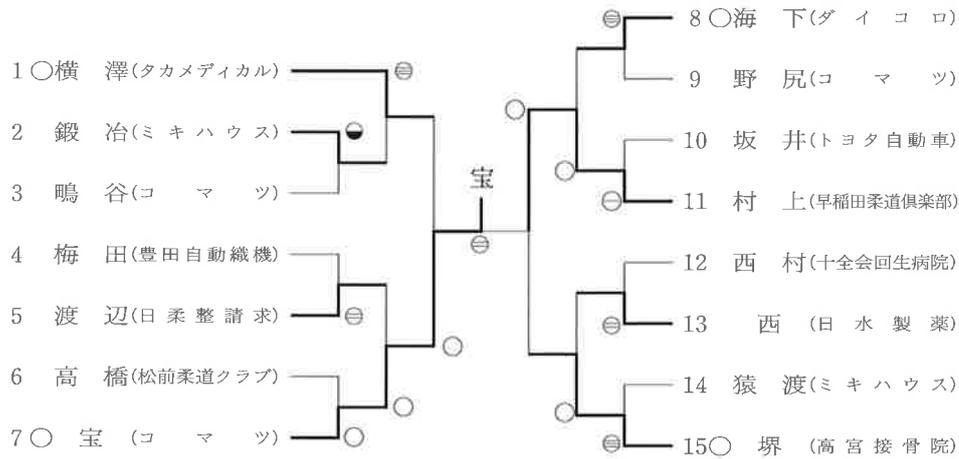
○印はシード選手

成績表

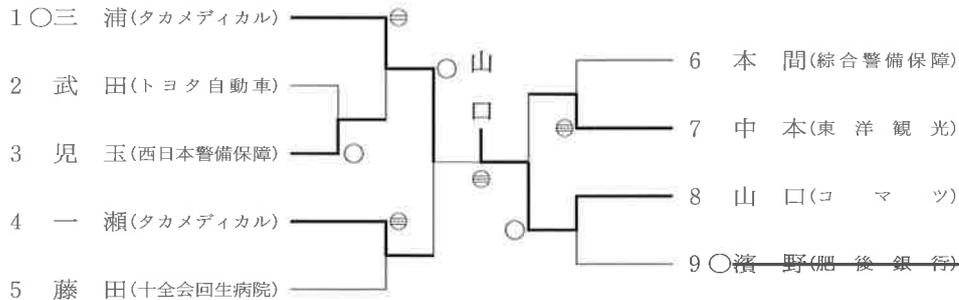
女子57kg級(20名)



女子52kg級(15名)



女子48kg級(9名)



○印はシード選手

国際ドイツ柔道選手権大会結果報告

平成14年度全日本実業柔道連盟海外派遣事業として、9月18日から25日の8日間にかけてドイツ・ブラウンシュバイツで開催された国際ドイツ柔道選手権大会に、阿南団長以下19名の日本選手団を派遣した。

本大会は、毎年ドイツ各地で開催されているが日本からの参加は初めてであり、イギリスやオランダなど男女合わせて14ヶ国294名が参加して盛大に開催された。本大会の特徴としては、試合時間5分間のゴールデンスコア方式で行われ、階級によっては世界チャンピオン(63kgバンデカーベイ・ベルギー)やヨーロッパチャンピオン(78kg超級コーペン・ドイツ)も出場するレベルの高い大会であった。

試合結果は、優勝4名(市ノ渡、中村、小川、貝山)、準優勝1名(山口)、3位3名(石川、植田、宝)であったが、選手によっては勝てる試合を落としたり、自滅に近い感じで敗れた者もあり、今後の成長のための大きな糧となるものと思われる。

(報告者 郷田博史)

◆日本選手団および試合結果

団長	阿南 惟正 (全日本実業柔道連盟 副会長)	
男子監督	郷田 博史 (旭化成)	
女子監督	松岡 義之 (コマツ)	
男子コーチ	小川 豊清 (ダイコロ)	
女子コーチ	長井 淳子 (コマツ)	
100kg超級	市ノ渡 秀一 (平成管財)	優勝
100kg級	中村 和裕 (京葉ガス)	優勝
90kg級	高橋 徳三 (新日本製鐵)	1回戦敗退
81kg級	丸山 昌孝 (セコム)	5位(3位決定戦敗退)
73kg級	石川 美久 (総合警備保障)	3位(3回戦敗退 敗者復活勝ち)
66kg級	北川 勝広 (ダイコロ)	7位(2回戦敗退 敗者復活 3回戦敗退)
60kg級	小川 武志 (了徳寺学園)	優勝
78kg超級	木屋 好絵 (ミキハウス)	5位(3位決定戦敗退)
78kg級	栗原 美幸 (コマツ)	7位(1回戦敗退 敗者復活 2回戦敗退)
70kg級	貝山 仁美 (三井住友海上)	優勝
63kg級	植田 裕子 (ミキハウス)	3位
57kg級	窪田 雅子 (コマツ)	1回戦敗退
52kg級	宝 寿栄 (コマツ)	3位
48kg級	山口 静 (コマツ)	準優勝



発行日 2002年10月10日
 発行 全日本実業柔道連盟
 発行人 事務局長 郷田博史
 取材協力 ジャーナリスト 宮澤正幸
 印刷 ダイコロ株式会社